



「エヴァンゲリオン」シリーズなど、キヤラクター遊技機で一時代を築いているフィールズ(株)(東京都渋谷区)は、

「すべての人に最高の余暇を」の企業理念の基に、「企業の社会的責任(CS

R)が企業活動そのもの」として、さまざまな活動に積極的に

取り組んでいます。なかでも最も注目されているのが、

第36回

と始めたウルトラマン基金の活動です。

3・11、東日

本大地震の衝撃がまだ覚めやらぬ20

11年3月、「未来のかけがえない希望の光である子どもたちに心からのエールを送るために」(基金の基本理念)、持続

的でしかも広範な活動の必要性を痛

感したフィールズが呼びかけ、関連企業や社員、個人から資金を募って、基金を立ち上げました。

最初の活動は2011年4月。まだ震災の爪あとが各所に残され、がれきの散乱していた宮城県石巻市、南三陸町、気仙沼市で支援活動を行いました。ここには元横綱千代の富士の九重親方や元プロ野球選手の清原和博氏も参加。牛井やちゃんこの炊き出し、支援物資の提供、ウルトラヒーローショーの開催などで子どもたちは大喜び。避難所で不安な毎日を過ごしていた大人たちにも大歓迎されました。ウルトラヒーローショーと各種の支援がセットになった基金の活動は、その後も被災各地で開催されています。直近では、2012年4月の福島県須賀川市への支援活動などもあります。エンターテインメント企業ならではの、楽しさあふれた企画イベントとして、とも

ウルトラヒーローショーで子どもたちは大喜び



ウルトラマン号は子どもたちの通園や通学の足として大活躍



バス提供、寄付も各県に

すれば暗くなりがちな被災者の皆さんの大きな励みになっています。

資金支援もかなりの規模です。震災当初は「ウルトラマン募金」として、ウルトラマンのオフィシャルショップなどで募金を募り、125万円余を集めて、5月8日、日本赤十字社を通じて全額寄付しました。その後は、ウルトラマン基金に統合、直接被災地に贈っています。2011年5月は、宮城県に3000万円、同7月には福島県へ2000万円。同9月には「いわて学び希望募金」に2000万円。9月の岩手県への寄付支援に際しては、2台のマイクロボスも贈り

ました。被災地では、多くの自家用車が流され、市民の日常の足だった電車や路線バスが壊滅的被害を受け、特に子どもやお年寄りがその影響を受けています。その後2台のバスは、幼稚園児や小学生をのせ、通園や通学の足として大活躍だそうです。資金集めは、当初の募金と同様、各所に設けられたウルトラマン基金の募金箱で行なっているほか、協賛企業とタイアップして、清涼飲料やクッキー、せんべいといった菓子などのチャリティ商品を開発。一般流通での販売のほか、ホルルの景品などにも使われているそうです。

フィールズでは、日常的な社会貢献活動も盛んです。本社のある東京渋谷では「渋谷駅前統一美化デー」に参加し、街の清掃活動に汗を流しています。神奈川県鶴沼海岸の清掃を行なう「鶴沼海岸クリーンアップキャンペーン」にも毎年30人を越える社員が参加するそうです。こうした日常活動が、ウルトラマン基金のような大きな活動を縁の下で支えるフィールズ社員の社会貢献に対する意識の原動力になっているようです。